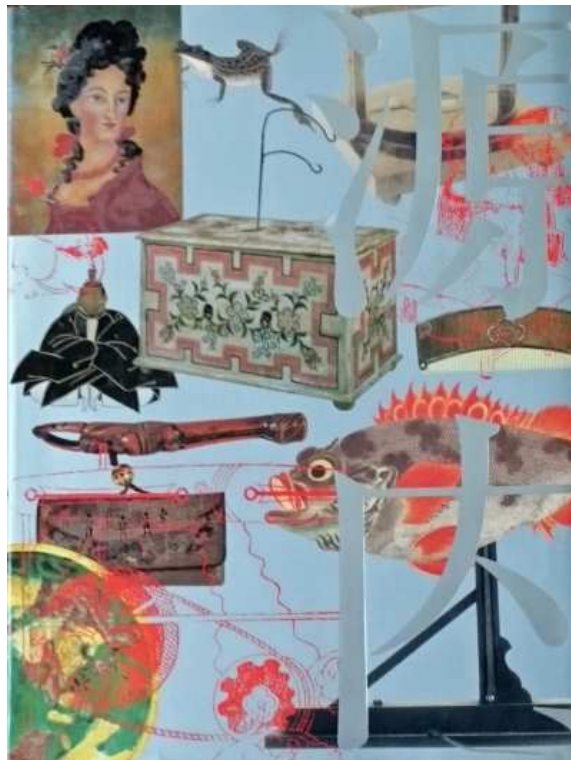


平賀源内展



本草学者、蘭学者、からくり師、洋画の先駆者、戯作・浄瑠璃作家・・・まさに「変化龍の如く」、平賀源内(1728～1780)ほど多数の顔を持ち、多芸多才な活動の足跡を残した人物はいません。そのあふれんばかりの才能に裏打ちされた各分野での業績は、250年の時を経てなお、依然色褪せない先見性に満ちています。

高松藩志度に生まれた源内は、天才「天狗小僧」の異名を取り、長崎留学の後、勇躍江戸へ上ります。「湯上りや 世界の夏の 先走り」。青雲の志に燃え、先頭切って走る気概に溢れています。その後源内は、当時としては比類のない活動範囲の中で、当代一流の人々との交流を繰り返すことによって、龐大な人的ネットワークを作り上げました。「馬鹿孤ならず、必ず隣有り」。源内を触媒とするこの「馬鹿」たちのネットワークは、確実にこの時代の文化を席捲し、自由闊達で底抜けに明るい新潮流を生み出しました。

本展は、単なる250年前の人物回顧としてではなく、現代人として源内を捉えてみようという試みです。

本展実現のために、美術館、博物館、図書館、個人などのご所蔵家から貴重な作品をご出展いただき、多くの方々からさまざまな情報、資料の提供をいただきました。

(主催者あいさつから抜粋)

(平成15年 香川県歴史博物館ほか編集)

(7100972350)

